

Contemporary
Classic Masterpiece

21世紀の クラシック新名盤

革新者たちの絶対必聴アルバム

本間ひろむ



21世紀のクラシック新名盤

革新者たちの絶対必聴アルバム

本間ひろむ

星海社

342



SEIKAISHA
SHINSHO

私は2002年から2006年まで、クラシック名盤紹介の本を4冊書いた。

それ以降もずっとクラシック音楽の本を書いてきたが、音楽を聴く環境は少しずつ、結果として劇的に変化した（日本の経済はコトリとも成長しなかったが）。

拙著『指揮者の名盤』（2003年／平凡社新書）のまえがきから少しひいてみる。

「最後にひとつ。願わくば彼らの名盤をできる限りコンディションのよい再生装置で、なるべく大きな音でお聴きになってほしい。もちろんヘッドホンを使用してもかまわない。ちなみに私は、自宅に近い石神井公園（東京練馬）にポータブルCDプレーヤーを持って行ってヘッドホンでクラシックのCDをよく聴いています」

約20年前の文章だ。

今やポータブルCDプレーヤーなんてネット広告で見えるくらいだ。クラシックのCDを買うことももうやめてしまった（銀座・山野楽器本店にはCD売場すらない）。

わが家の再生装置（ONKYOのシステムコンポなれどONKYOというカンパニーのAV部門はもうない）自体、ずいぶん長い間、稼働していない。

「ピアノを専攻している現役の学生さんたちと話して感じる事。今の時代、CDプレーヤーを持っていない、テレビもない。音楽はスマホかPCで、主にYouTubeで鑑賞している→ここまではなんの問題もない。しかし、グールド、ポリーニ、ツイメルマンやアルゲリッチを知らないのは、やはり悲しい…」（2022.7）「X」Mixyilk 金子三勇士

Official @mixyilk)

ピアニストの金子三勇士はXのポストでこんなふうに嘆いている。
そう、YouTubeや配信で音楽を聴くことは誰にも止められないのだ。

「人は音楽にお金を使わない。ライブ、ストリーミング、CDなど含む全音楽の全世界

の売上は年間10兆円以下らしい。この売上は三菱商事1社より小さい。ちっちゃなバイを無数の天才が奪い合ってる血の海が音楽という市場」(2024.1.25〜「X」成田悠輔 @narita_yusuke)

いかしたメガネ(片方が○、片方が□)をかけた若き経済学者がこんな身も蓋もないことを呟いている。数字だけしか見えてない学者さんの一意見に過ぎないが、さりとて音楽マーケットそのものがシュリンクしているのも事実。だって、2023年の日本のモバイルゲーム輸出額が約1兆7千億円という報告(経産省「エンタメ・クリエイティブ産業政策研究会」)もあるのに、音楽は世界全体で10兆円以下はやばい。

構造的かつ恒久的な問題、あるいはビジネスモデルとしてもはやオワコンということ?ともかくだ、そりゃあSiriとかAlexaにモーツァルトが聴きたいというと、何かしら見繕ってくれるという環境が全世界に広がったんだから、シュリンクもするでしょうよ。

一方で、ハイエンドな音楽再生装置でハイレゾ音源のクラシックを聴く層も一定数いる。どっかの大国のように二極化が進んでいるのだ。

ただし、ハイエンドな音楽ファンたちのバイブルである老舗音楽雑誌は一旦休刊になり、

クラウドファンディングによってインターネット上で復活するというカオスな状況。

ハイレゾ音源の音質の話をすると、Amazon Music UnlimitedとApple Music、ナクソス・ミュージック・ライブラリーなどは、ロスレス・ハイレゾ配信（Appleではロスレスオーディオと呼んでいる）を行っている。わざわざ高価なハイレゾのCDを買うまでもないのだ。理論上、Emil Berliner Studiosで録音されたタイトルを配信で、その音楽情報を損なうことなく世界中の好きな場所で聴くことができるのだから。

ハイエンドな音楽環境で高音質の音楽を愉しむのを止める権利は誰にもない（再生装置もそこそこ高価だしね）し、ネットなんかじゃなくてフィジカル（CDやレコード）にこだわるのもご本人の自由だ。けれど、これは乗馬のような高尚な趣味のひとつに見える。

やがて誰もそれに手を染められなくなる運命のものだ。

同様に、YouTubeや配信で音楽を聴くことを誰にも止められない。

私もAmazon Music Unlimitedをターミナルにして、クラシック音楽のタイトルをモニターヘッドホン、audio-technica ATH-A500Z（ハイレゾ音源対応のA900Zではない）で聴いている（もちろん、SennheiserとYAMAHAとしかるべきモデルならどのメーカーのヘッドホンで聴いていただいても構わない）。

あるいは、Amazonのブラックフライデーで手に入れたタブレット（Fire 7）にアンプ搭載の外部スピーカー（Creative Inspire T10 R3）をつないで聴くことも多い。これは仕事部屋。リビングにはスマートスピーカー（Echo Dot 第3世代）に仕事部屋と同型の外部スピーカーをつないでいる。YAMAHA Clavinovaの上にあるTOSHIBA REGZA（50インチ）はこのスマートスピーカーとも外部スピーカーともリンクして、Alexaにひと声かければ音楽も聴けるし、TVを見ることもできる。

これが2025年のリアル・ライフだ――。

どんな環境であるにしろ、いいものを聴いた方がいいに決まってる。でしょ。てなわけで、20年ぶりにクラシック名盤案内&カルチャー論の本を書きます。

金子三勇士に話を戻すと、彼がいうようにグールド、ポーリーニ、ツイメルマンやアルゲリッチを知らないのは悲しいのだけれど、20世紀を代表する彼らの功績は功績として、21世紀は21世紀で鬼才や異才や天才が名盤、あるいは数十年後に名盤と呼ばれているだろうタイトルを録音している。それらは（たぶん）SiriやAlexaに訊いても教えてくれない。

なので、私を書きます。21世紀になって四半世紀しかたっていないけど。

それからもうひとつ。私は批評家という職業にありながら、レコード会社からの見本盤

をすべてお断りしてきた。見本盤を評することはとどのつまりは宣伝行為になるからだ。

大学時代の同級生が UNIVERSAL MUSIC のカタログ部門（クラシックの旧作・名盤を扱う）にいてもう退職したが、彼からも1枚の見本盤も受け取ってはいない。

演奏会のご招待は喜んで承る。ただし、その場合、コンサート評を書いて対価を得るということは差し控えている。レビューを書いても自分のブログや SNS だけだ。

ま、そういうわけで本書には忖度は一切ございません。広告主の機嫌を損ねて出稿を止められることを気にして手心を加えることもない。

そのようにお読みいただけたら幸いです。

目次

まえがき 3

EPISODE 1 ヴィルトゥオーゾの饗宴

アルゲリッチ、クレームル、マイスキー、バシュメット 17

旧世紀の巨匠たち 18

アルゲリッチの変貌 19

情念の四重奏 22

アルゲリッチの宣言 25

21世紀の名盤の定義 28

クレームルの恋と音楽 30

無伴奏曲の恐ろしさ 32

EPISODE 2

古楽器のフロンティア 最後の貴族アーノンクール 37

ニューヨークのヤンキース・ファン 38

クラシック音楽と貴族文化 39

ロックスターたちが出た学校 42

ロックと階級の関係 44

サブプライム危機と社会格差 46

アメリカのプワホワイトと政治 48

古楽器革新の始まり 50

リヒターの《マタイ受難曲》 52

アーノンクールの《ブランデンブルク協奏曲》 54

広がる古楽器のトレンド 57

アーノンクールの《レクイエム》 59

EPISODE 3 ヴルトウオーズを葬り去る ロトの革命、シュタイアーの技巧 61

コンサートへボウとCD革命 62

レコードの手触りの喪失 63

原音再生の追求 64

トスカニーニの生放送 66

カラヤンの商業主義 68

レ・シエクルの革新 69

インディーズ・レーベルの主戦場 71

ロトの《運命》 73

シヨパンと古楽の新潮流 77

グールドのソフト・ペダル 79

古楽器トレンドの現在地 81

EPISODE 4

21世紀の使徒降臨 マケラ&ヤンセン 83

カリスマ指揮者の終焉 84

マケラの登場 86

メジャー・エージェントの好み 89

ロシア楽派のいま 92

ヤンセンのヴァイオリン 94

EPISODE 5

新世紀のじゃじゃ馬ならし ドウダメルとユジャ・ワン 99

ユジャ・ワンの魅力 100

ドウダメルの才能 102

音楽と政治 104

ユジャ・ワンのラフマニノフ 107

EPISODE 6 トリガーとしてのショパン・コンクール 世界がかていんを見つけた日 111

日本のレコード・マーケット 112

XGと日向坂 46 113

世界配信されたショパン・コンクール 115

世界がかていんを見つけた 118

日本人ピアニストの活躍 121

藤田真央の稀有な才能 123

EPISODE 7 ルカ受難曲は名曲なのか 現代音楽というラビリンス 127

現代音楽の変容 128

カラヤンと《新ウィーン楽派》 131

グールドとシェーンベルク 132

色彩を失ったクラシック音楽 135

現代音楽の不協和音 138

ペンデレツキの《ルカ受難曲》 140

EPISODE 3

21世紀のディーヴァは誰だ

ネトレスコ？ ゲオルギュー？

145

オペラの歌姫 146

21世紀の二人のプリマ 148

ディーヴァたちの新名盤 149

オペラハウスが仕事場 152

世界で活躍する日本人声楽家 153

サガンの『ブラームスはお好き』 155

EPISODE 3

狼と暮らす女

グリモアのブラームス 159

ピアニストたちの作曲家の好み 160

チェリビダッケのブラームス 161

グリモーと狼の出会い 163

狼とブラームス 166

ブラームスの愛の本質 167

グリモーのブラームス録音 170

魂が求める音楽 171

配信で聴く名盤・新名盤ガイド

21 + 19 175

名盤・新名盤ガイドの使い方 176

あとがき 198

参考文献 203

EPISODE 1

ヴィルトゥオーゾの饗宴

アルゲリッチ、クレームル、マイズキー、バシュメット

旧世紀の巨匠たち

20世紀のヴィルトウオーゾと呼ばれる弦楽器奏者三人とピアニスト一人が、ブラームスの《ピアノ四重奏曲第1番》を録音した。2002年。21世紀に入った次の年だ。

4人ともにユダヤ人。あるいはユダヤ系と呼ばれている音楽家だ。ユダヤ系ロシア人、ユダヤ系ウクライナ人、ユダヤ系アルゼンチン人。ただ、アルグリッチをアルゼンチン人だと認識する人はもはやいない。

マルタ・アルゲリッチ（ピアノ）、ギドン・クレームル（ヴァイオリン）、ミッシェル・マイスキー（チェロ）、ユーリ・バシユメット（ヴィオラ）という最強メンバーだ。

ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、ヴィオラの4つの楽器によるピアノ四重奏曲は、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、メンデルスゾーンといったメジャーな作曲家が手がけてはいるが、ピアノ・トリオほどポピュラーなクラシックはなく、ま、弦楽器なら弦楽器で弦楽四重奏曲でいいじゃんということもあるのかなのか、一般的な人気も、大家によるレパートリーも少ない。

レアな分野に闘志を燃やしちゃう（あるいはベートーヴェンの影を恐れるという意味も大きい）のがヨハネス・ブラームスという優しいな魂を持つ作曲家。クラリネット五重奏曲

とかクラリネット・ソナタ、弦楽六重奏曲といったメインストリームから外れたレパートリーに名曲が多い。リートとか、合唱曲とかね。

私はこのタイトルはちゃんとフィジカル（CD）で持っている。2002年当時はまだCDショップに活気があった。うちのONKYOのシステムコンポも元気に稼働していた。ただ、住宅事情で大音量が出せないのが悩みでもあった。そこんところをクリアするために、郊外の一軒家に引っ越したんだ、という愛好家も多い。

それでも、それからほんの10年くらいの間に、こうしたアセット（クラシック音楽の音源）がどんどんデジタル化・クラウド化していく。TOWER RECORDSやHMVのワゴンセーブルで思わぬ安価で名盤が出ているという話を当時の担当編集者から聞くくらいCDが売れなくなっていた。

アルゲリッチの変貌

この頃にはアルゲリッチはすっかり温厚になり、リサイタルを避けて室内楽ばかりやるようになっていた。もともと人前でピアノを弾くのが嫌で嫌でしょうがない女なのだ。

母になり、子どもが巣立ち、皮膚癌を克服し、貴腐ワインとはいいい過ぎだが、豊かな響

き、まろやかさを獲得してアルゲリッチという楽器が新たな局面を迎えていたのだ。かつて、批評家の浅田彰がこんなことを書いていた。

「アルゲリッチのショパンは、子どもが三人いて父親がみな違うという女のショパンだ。冷徹な楽譜の読みをふまえてはいるものの、ここぞというところで抑制をはずし、指の走るにまかせて弾き破る。そんなとき彼女が笑うところを、ぼくは何度か見た。至難なブラヴァーを楽々とこなしつつ、アルゼンチンから来た女ははなやかに笑った」

（『ヘルメスの音楽』浅田彰）

違うってば。ミスリード、あるいは小さな悪意のある切り取りだ。これは。

浅田の文章はアルゲリッチの天才性は認めつつも、厚顔無恥な音楽家という印象を与える。

アルゲリッチが演奏中に「はなやかに笑った」ところを私は見たことがない。ただし、室内楽を演奏している最中にはよく微笑んでいる。これはアンサンブルを経験したことのない人には（たぶん）理解できないやつだ。

配信で聴く名盤・新名盤ガイド
21+19

名盤・新名盤ガイドの使い方

本文で紹介した20世紀の名盤、21世紀の新名盤をリストアップしました。

結局のところ、21世紀に入ってまだ25年。四半世紀です。あくまで本文の内容とリンクした名盤リストなので、多少の偏りは否めないということです。

それゆえ、クラシック音楽全体を俯瞰するようなリストにはなっていないことはご容赦願いたい。

かつて、CDやレコードの時代は古い名盤は入手困難で、あちこちの中古CDショップを巡ってやっと巡り合ったり、海外に旅行した時に入手したりと、それはそれでコレクション心をくすぐっていたりした。

そんなレアアイテムも、気づけばしれーっと配信してるじゃん！ というのが2025年のリアルな環境だ。そんなこんなも含めて、ご利用していただければ幸いです。ただし、本文中で紹介したにもかかわらず配信のないタイトルもあります。残念。

*レーベル名のあとの（ ）は録音年です。

アルバムガイドの見方



Spotify



Amazon Music



Apple Music

新 名 盤



マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)、
ギドン・クレーメル(ヴァイオリン)、
ミツシャ・マイスキー(チェロ)、
ユーリ・バシュメット(ヴィオラ)

Deutsche Grammophon (2002)

ブラームス《ピアノ四重奏曲第1番》、
シューマン《幻想小曲集》

アーティスト名

レーベル

録音年

アルバム名

オリジナル盤の
レーベル名を
記載しています

QR リンクをスマートフォン等のカメラから読み取ってください。
その場でサブスク音楽配信サービスが楽しめます。

- *各アルバムの本掲載情報とプレイリスト配信各サービスの掲載情報に
差異がある場合がある旨、ご了承願います。
- *本番に掲載しているものの、プレイリスト配信各サービスにて
配信されていないアルバム、楽曲がある旨、ご了承願います。
- *プレイリスト配信各サービスの事由による配信終了につきましては
弊社対応外となります。



Spotify



Amazon Music



Apple Music

新 名 盤

ARGERICH · KREMER · BASHMET · MAISKY
Brahms: Klavierquartett op.25 · Schumann: Fantasiestücke op.88



マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)、
ギドン・クレーメル(ヴァイオリン)、
ミッシェ・マイスキー(チェロ)、
ユーリ・バシュメット(ヴィオラ)

Deutsche Grammophon (2002)

ブラームス《ピアノ四重奏曲第1番》、
シューマン《幻想小曲集》



Spotify



Amazon Music



Apple Music

名 盤



マルタ・アルゲリッチ(ピアノ)、
ギドン・クレーメル(ヴァイオリン)、
ミッシェ・マイスキー(チェロ)

Deutsche Grammophon (1998)

チャイコフスキー
《ある偉大な芸術家の思い出のために》、
ショスタコーヴィチ《ピアノ三重奏曲第2番》



Spotify

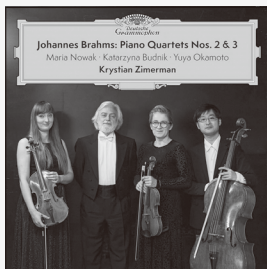


Amazon Music



Apple Music

新 名 盤



クリスチャン・ツィメルマン(ピアノ)、
マリア・ノーヴァク(ヴァイオリン)、
カタージナ・ブドニク=ガラズカ
(ヴィオラ)、
岡本侑也(チェロ)

Deutsche Grammophon (2021,2023)

《ピアノ四重奏曲第2番》《第3番》
ブラームス



Spotify

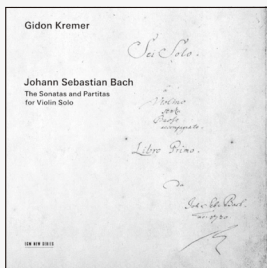


Amazon Music



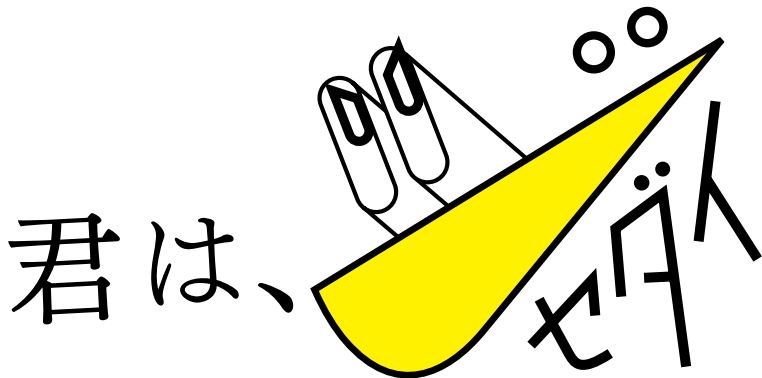
Apple Music

新 名 盤



ギドン・クレーメル(ヴァイオリン)
Ecm (2001, 2002)

J・S・バッハ《無伴奏ヴァイオリンの
ためのソナタとパルティータ全曲》



何と闘うか？
<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、
行動機会提案サイトです。読む→考える→行
動する。このサイクルを、困難な時代にあっ
ても前向きに自分の人生を切り開いていこう
とする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ

ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月
開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。
「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、
すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!